

天文台発 ぽらりす



≪2024年11月1日発行/毎月初めに天文台職員が情報発信します≫

Published by Sapporo Astronomical Observatory

★見えない理由

一般的な星空案内やこの情報紙では「〇〇が見えます」という記事を載せることが多いですが、今回は趣向を変えて「見えるはずなのに見えない理由」を紹介します。

水星

①11月16日は「東方最大離角」なので、日没後の南西の空に見えませんか？

→→太陽系の8個の惑星の中で最も内側を公転する水星は、地球から見るといつも太陽の近くにあるため観察しやすい時期は「最大離角」の頃のわずかしかなかったりありません。この札幌では日没時の水星の高度が約8度。空が暗くなるのを待っていたら、水星は沈んでしまいます。

②天文台の望遠鏡ならば、昼間公開時に水星を見ることができるのでは？

→→望遠鏡自体の性能では可能ですが、見える時間帯の目安は11時半～12時です。午後の公開時間には**公園の木に隠されるため**見えなくなります。



天文台の望遠鏡で見た昼間の水星
(2024年9月8日)

金星

③最近、金星を見ていないんですが、見えない時期なんですか？

→→いいえ、宵の明星(よいのみょうじょう)として**南西の低空に見えています**。11月初めでは、日没30分後の金星の高度は約10度。中島公園内では「ボート乗り場」付近での観望がお勧めです。藻岩山の上に見え、映える写真も撮れそうです。12月～来年1月と次第に高度が高くなるので簡単に見つけられるでしょう。

④天文台の望遠鏡ならば、昼間公開時に金星を見ることができるのでは？

→→11月中は可能性が低いです。理由は②と同じです。12月になると14時以降の短時間に見えるようになり、月のように満ち欠けする形も分かるでしょう。

紫金山・アトラス彗星

⑤肉眼で見えませんでした。

→→10月20日頃までは月明かりがあり、彗星観望には邪魔になりました。(特に17日のスーパームーン満月。) 条件は同じなのに、見た人と見えなかった人がいるのは、視力の差ではなく、「光を感じているけど認識できていない」場合が考えられます。点状に光る恒星と異なり、面積があるボンヤリした光の彗星や星雲を観察する時は「視線をそらして視野の端で見る」等で存在が分かることがあります。(布施 隆久)

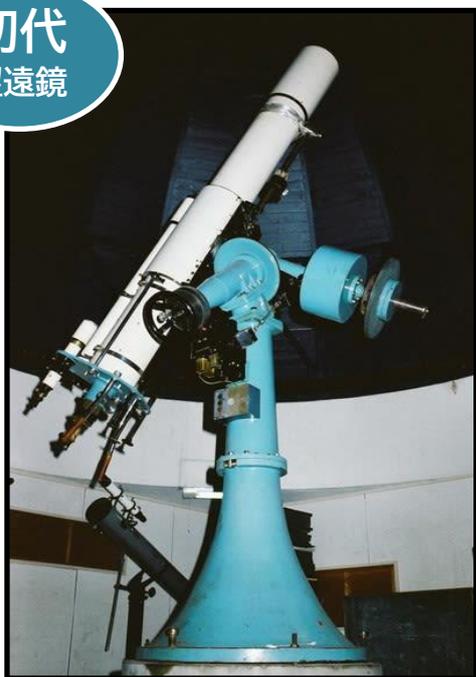


紫金山・アトラス彗星
(2024年10月16日)

天文台の望遠鏡 40 周年

昭和 33 (1958 年) 天文台開設時
20 cm 屈折望遠鏡(アクロマート)
メーカー:東京光学

初代
望遠鏡



北海道の天文台では、昨年オープンしたしんしのつ天文台の望遠鏡は口径 50 cm、陸別の銀河の森天文台は口径 115 cm、名寄市立天文台きたすばるには道内最大の口径 160 cm の望遠鏡などがあります。これら口径の大きい望遠鏡は、より暗い星の光を集める力に長けた「反射式」です。札幌市天文台の望遠鏡はこれらに比べると小さいですが、大気のゆらぎの影響を受けにくく、はっきりくっきり見えるのが特徴の「屈折式」望遠鏡です。

当天文台は、札幌市の中心部にあるため銀河や星雲の観望は街あかりの影響を受け厳しいですが、昼間は太陽や金星、夜間公開では土星・木星・月や連星などの天体をご案内しております。
(横山明日香)

2 代目
現行望遠鏡

昭和 59 (1984 年) 更新
20 cm 屈折望遠鏡(アポクロマート)
メーカー:五藤光学研究所



札幌市天文台の望遠鏡が、今年で 40 周年を迎えました。初代の望遠鏡は、天文台開設時より 26 年間使用され、今の 2 代目に更新されました。口径は同じ 20 cm の屈折望遠鏡ですが、より色のにじみの少ないアポクロマートレンズとなり、性能が向上しました。

40 年を経ても十分な性能を保っておりますので、これからも皆さんに色々な天体をお見せしたいと思っています。

 **太陽の観望を希望される方へ ~ 午前中にお越しください。**

今年は太陽活動が活発で、大きな黒点やプロミネンスが観望できる日が多いですが、季節の移ろいと共に太陽の高度が低くなってきました。午後には公園内の木々に隠れてしまいます 🌲🌳🌲🌳

☆ 11 月の夜間公開 (予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

1 日(金)~ 3 日(日) 18~20 時 土星・秋から冬の星座

15 日(金)~17 日(日) 18~20 時 月・木星・土星・秋から冬の星座

休台日は、5 日(火)、11 日(月)、18 日(月)、25 日(月)です。